

当園ではこの度、2022年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

## I. 教育目標

- 共同と、自主自立の芽生えをつちかう
- 心と体を健康に伸ばす
- 創造性を豊かにする
- 思考力の芽生えをつちかう
- 豊かな情操・感覚を養う

## II. 今年度の重点目標

- 教職員の資質向上
- 安全管理体制の充実
- 家庭との協力・連携
- サービスの向上

## III. 評価項目と取組み状況

評価項目	取組み内容	評価	取組み状況
1 教育内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の在り方や狙い、行事に関して、各学年で情報共有を行っている。</li> <li>・また、各学年で子どもの入園から卒園までの成長過程を意識した取り組みを行っている。</li> <li>・保育の指導内容に関してはクラス間での差を生まないように情報共有や、相互確認を行っている。</li> <li>・保護者に対し、園の教育、保育の狙いをしっかりと伝えられるよう子どもたちを「見てもらう機会」を作っている。</li> <li>・園児への指導と関わり方や指導内容について、積極的に研修・研究を行っている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事前には必ず会議をし、前年度の反省点を共有しながら新しいことにチャレンジすることができた。近年コロナ禍で他学年との交流が難しかったが、今年度は少しずつ規制が緩和されたことで、縦割りでの自由遊びや全学年での茶話会をすることができた。</li> <li>・学年では保育の指導内容を細かく話し合い、無理のないよう計画を立てて保育に取り組めた。また実際に保育後にクラス間で子どもの反応などについて共有することができた。</li> <li>・保育参観の回数を増やし、見てもらう機会が増えた。参観の形も、保護者と一緒にゲームをするなど参加型の参観や給食参観、制作の参観など様々な形があり、保護者からも「楽しかった」と言ってもらえた。</li> <li>・阪私幼の研修を積極的に受けもらった。また保育雑誌やいろいろな子ども・保育に関する情報を収集し、保育に取り入れていけるようにした。</li> </ul>
2 自主性の創出	<p>職員が肯定的な言葉を普段から使用する事を基本とした上で、子どもたちに対してほめるなど肯定的な言葉を多用することで、園児の自主性ややる気を促している。その上で、子どもの個性にあった接し方や声掛けを行う事ができている。</p>	A	<p>マイナスな注意の仕方ではなく、「なぜ、どうして、いけなかったか」をきちんと向き合い話すことができ、大人の都合や善悪だけでなく、子どもの背景をみる保育ができた。</p> <p>基本的に標準語を使用し、子どもにデメリットがない言葉遣いを行った。年中、年長児は特に言葉が乱暴になる年齢でもあるので、その都度意識できるよう声掛けを行った。</p> <p>子ども一人ひとりに寄り添い、その子なりの良さを認め、自信が持てるように声掛けをした。</p>
3 安全管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の安全に関する情報共有を終礼で伝えあったり書類を回覧したりする等で行っている。</li> <li>・また、感染症対策として国の指針に沿って状況に応じた対応を実施することができている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終礼で各クラスの情報を共有し、その結果をラインワークスで文面に残すことで、終礼に参加できない職員にも共有できるようにする等、情報共有が進んだ。</li> <li>・コロナ対策については、マスク着用や消毒を行ったうえで、誕生会などは室内のため各学年ごとに関催、運動会は屋外のため全学年で開催するなど試行錯誤しながら行った。</li> </ul>

## 【評価の基準】

S	十分達成されている
A	達成されている
B	取組まれているが、成果が十分でない
C	取り組みが不十分である

## IV. 今後取り組むべき課題

1	教育内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年内での情報共有ができていたので、他学年との繋がりや情報共有も定期的に行う。進級や就学までに育ててほしい姿を踏まえた保育・計画を立てること。</li> <li>・会議の日程が行事間近だったことから、物の不足等慌ただしい場面があったので、次年度は余裕を持って取り組めるようスケジュール管理を行いたい。</li> <li>・参観、行事を増やすことに加えて日頃のコミュニケーションや交流を充実させること。実践の可否はあるかもしれないが、行事ごとに保護者にアンケートをとるなど。</li> <li>・園内のマニュアルをタブレット端末に保存し、職員全員がすぐに確認できるようにしたい。研修内容を振り返ったり共有したりする場を作る。必要に応じた(学びたい)内容の研修を選択できると良い。</li> </ul>
2	自主性の創出	<p>個々の個性を認め、どんな小さな事でも子どもが自ら乗り越えられた時には、大いにほめてあげたい。</p> <p>園児一人一人の行いを把握し、やる気につながる前向きな言葉かけが出来るよう心がける。</p>
3	安全管理体制の強化	<p>避難訓練の仕方を訓練により、子ども達が自分達でも身を守ることを考えていけるような工夫をしたい。</p> <p>継続して、保育室・園内の衛生管理は続け、園児の安全に関する情報共有を行う。</p>

## V. 学校関係者の評価

3つの評価項目それぞれについて、重点項目を意識した取り組みが実施されている事が見受けられた。

コロナウィルスの規制が緩和された令和5年度においては、園の教育方針を明示し、保護者の行事等の参加を増やし、園に関する理解を深めてもらうことを意識すること。批判をおそれずに率直な意見に耳を傾け、今後の教育に活かしていく事が大切と思われる。

縦割りグループで実施した行事について、年下／年上との関わり方を学ぶ機会を設けており、子どもたちにとって貴重な経験になったものと思われる。また、保護者参加型の行事も実施されており、普段の姿を見る事ができたことで保護者も楽しむ事ができている。

子どもたちのお迎えの際に、その日の出来事を伝達してもらえる等、安心して預ける事ができた。また、子どもたちの良いところを伸ばしているという印象を受け、細かい部分まで見てくれていると感じた。

職員間の連絡は口頭のみではなく、文面に起こすことで勘違いを防止し正しい情報を共有する事で園業務がスムーズになり、保育に精進できることを期待する。